

# CVIT 2023 Asia-Pacific セッション紹介

社会医療法人天陽会中央病院 循環器内科 | 加治屋 崇

## はじめに

これまでの心血管インターベンション治療は日本が世界をリードしてきたといっても過言ではない。背景には日本人術者が非常に丁寧な手技を行うこと、またIVUS、OCTなどのイメージングデバイスが保険償還されることなどが挙げられるが、近年アジア各国の治療のレベルも格段に向上している。アジアと一言でいっても、それぞれの文化、人種形成、宗教は全く異なっている。中でもシンガポールなど一部の国では、新しいデバイスや薬剤が世界に先駆けて導入されることもあり、学ぶべきことも多い。今回のCVIT 2023では、アジア15カ国以上の国々から先生方をお招きし、アジア各国のそれぞれの違いを学ぶセッション、日本ではまだ使用できないデバイス・薬剤について学ぶセッション、治療困難な症例についてのディスカッション、またアジアの若手の先生方に日本の技術を学んでもらうセッションなど10セッションを企画した。

### 1. CVIT-APSIC ジョイントセッション： WIN-APSIC ; Leadership and Career plan for female interventionalists

2021年に発足したWIN-APSICはアジ

アの女性インターベンショナリストの活躍の場を広げるために活動するグループであり、今回はLeadership and Career planをテーマに、アジア各国の女性インターベンショナリストの現状と展望を紹介してもらおう。これまで奮闘してこられた日本の先生方を交えて、これから女性が益々輝ける現場を作っていけるように議論を行ってもらいたい。

### 2. New devices in Asia

心血管インターベンション治療の発展＝デバイスの進化、発展であり、冠動脈インターベンションの分野のみならず、ストラクチャーや静脈インターベンションの分野ではまだまだ新しいデバイスが登場する。現時点では日本未使用のデバイスについて、シンガポール、米国、中国の先生から、その経験を講演していただく。

### 3. Complication cases from all over the Asia

症例ベースで議論するセッションであり、様々な国から手技に伴う合併症をどのようにバイアウトに成功したかを発表してもらおう。基本的に日本以外の国ではイメージングデバイスをルーチンで使用することは難しく、手技に伴う合併症も、日本では経験しないようなものもしばしば報告されている。限られた環境での

手技の工夫や知恵など、是非日常診療に活かせるポイントを学んでいただきたい。

### 4. Current International CTO PCI

CTO治療は特にデバイスの違いが治療成果に結びつく分野であり、日本のように多くの種類のガイドワイヤーが使用できる、あるいはIVUSがルーチンで使用できる国はなく、それぞれの国で工夫を凝らしながら治療が行われている。近年は日本のCTOスペシャリストが各国を訪問し、手技を伝えることで、大分日本に近い治療が行われるようになってきているが、それぞれの国の現状はどうなっているのか？その中に明日のCTO治療に活かせるヒントがあるかもしれない。

### 5. Current clinical interventional cardiology in our countries

本セッションではあまり日本の先生方になじみがないであろう国々の紹介をしてもらおうとした。インドネシア、ベトナム、ネパール、ミャンマーの心血管インターベンション治療はどのように行われているのか？日本のような国民皆保険制度は世界では稀な制度であり、アジアでは高額な医療機器の使用に制限がある国も多い。それぞれの国で日々生命を救うべく奮闘している先生方の話から得られることは多いはずだ。